

三原市民と市長の「みらいトーク」(第3回) 実施結果

令和3年1月28日

目 的 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日 時 令和2年12月21日(月曜日) 14時50分から16時50分

場 所 鷺浦コミュニティセンター(鷺浦町)

参加者 さぎしまを愛するボランティアガイド(7名)

土田会長, 山本副会長, 引地副会長, 奥野事務局, 開本会計, 奥野企画委員, 小谷企画委員
三原市長

さぎしまを愛するボランティアガイドについて

・団体設立年月 平成18年(令和2年12月現在 会員約17名で構成)

先人が大切に守ってきた美しい自然と温かい風土を受け継ぎ、そのすばらしさを自覚して、佐木島をより誇りあるものにしていくことや、子どもたちや住民、来島者にこのすばらしさを伝えていくことで、さぎしまの活性化に繋がるよう貢献することを目的とする

・活動内容 佐木島の案内・ガイド, 島民総ガイド, 伝承, 広報, 研修

主な質問と回答

項目	意見内容	市長の回答
ガイドの目標・展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドのチャレンジ（目標・展望）として、次のことを掲げ、活動している。 ①佐木島の良さ・宝を活かして、1年間を通して多くの観光客を呼べるように、ツアーを企画すること ②交流体験型観光によって、「つながりのある暮らしの心豊かさ」を来島者と共有すること ③島の宝をつくること（「さぎしま花の島」全島公園化計画，郷土料理の掘り起こしと創作，海浜セラピー） ④島の宝のランクアップ ⑤航路の安定化 ⑥農業後継者の定住，さぎしまみかんのブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光のスタイルは体験型が増えている。体験観光がたくさんできるのが佐木島の魅力。 ・コロナの影響もあり，都会暮らしから田舎暮らしにあこがれを持つ若者も増えている。 ・農業をしながらの充実した暮らしは，あこがれのライフスタイルで，三原で可能。多くの人に知ってもらえたら，もっと人は来る。
観光振興（海浜セラピーの活用）	<ul style="list-style-type: none"> ・佐木島の浜辺の気持ちよさを五感で感じ，心身ともにリラックス・リフレッシュする「海浜セラピー」は，日本初の取組で，当初は，テレビやラジオからも取材を受け，積極的に取り上げられ，商標登録もした。人気があり，観光資源として，積極的に活用に取り組んでもらいたい。 ・海浜セラピーは，ガイド主体で提供しているが，体験型観光やヘルスツーリズムはこれから大きく伸びていく。ウォーキング，サイクリング，トライアスロン，登山，みかん狩り，じゃがいも掘りなど，体験観光に積極的に取り組んでいただきたい。 ・JRふれあいウォークの冊子がメインの広報媒体で 	<ul style="list-style-type: none"> ・海浜セラピーは，若い母親世代も関心を持ちそうである。活用を検討したい。

	<p>あったが、ウォークが取りやめとなり、媒体がなくなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市には、集客、企画、PRに力を入れてほしい。 ・自主企画はインターネットで募集しているが、島への観光客は高齢者層が中心で、ネットを利用しない人が多い。市の広報では、市外には届かない。 ・他地域では、若い女性を対象としたツアーや高級ホテルでセラピーを提供している例もある。 	
<p>海岸の清掃</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模で海洋ゴミが問題になっている中、佐木島の砂浜にゴミが流れてくるため、その処理に苦慮している。景観にも影響している。 ・島の西側の長浜海岸にゴミが多い。北側の大野浦海岸には比較的少ない。 ・沼田川の河口は佐木島に向いており、2年前の豪雨災害時には、販売用商品なども流れてきていた。捨てられた冷蔵庫やテレビも流れてくる。 ・清掃活動をイベントやツアー、ビーチコーミング（漂着物の収集・整理活動）とすれば、楽しめて、来訪者も増えるため、市や観光協会で企画してほしい。航路の利用にもつながる。 ・海のゴミは、定期的に清掃されている。島には、毎週木曜日に1時間、向田港にゴミの収集に来ており、以前は指定場所に置いておけば収集されていたが、現在は手渡しでの収集になった。収集方法を検討するようお願いしていただけないかと思っている。 ・市が年に1回、7月頃に、市長や関係機関が来て、島 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにゴミの回収をしているかを市でも確認しておく。 ・ご意見として承り、今後の施策検討の参考にする。 ・海洋ゴミは世界的な問題で、子どもの教育活動に活かすこともよい。

	<p>の海岸清掃活動「リフレッシュ瀬戸内」が実施しているが、イベントとして実施されているため、きれいになるのはその日だけである。清掃場所も3か所しか回っておらず、もっと拡大ができないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託による清掃も検討できないか。 ・以前、ゴミを収集するツアーを市が実施したことがあり、検討いただきたい。 	
<p>「塔の峰千本桜」の管理・整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・塔の峰千本桜には年間7千人が来訪している。向田地区の有志が桜を剪定したり、草刈をしたり、山の整備をしているが、高齢化し、重労働になっている。 ・桜の木は1200～1300本あり、観光地として手入れが必要な状況。 ・市の観光スポットであり、草刈りや桜の木の剪定などを市で整備ができないか。 ・木が密集しており、以前、造園業者に伐採してもらったことがある。住民だけでは剪定が難しく、業者でないと対応できない状況。 ・木の管理の専門的なことも分からないため、桜の木の点検なども含めて、公園らしく整備してほしい。 	
<p>「塔の峰千本桜」用の駐車場確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・塔の峰千本桜には、花見シーズンに、リピーターも含め、多くの人を訪れ、喜んでもらっているが、駐車場についての問い合わせが多い。 ・島内には花見スポットが3か所あり、車で来る人も多い。 ・観光客用の駐車場が不足している。 ・塔の峰千本桜は、市の観光施設として駐車場の整備・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討する。

	<p>確保をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サギ・セミナ・センターの駐車場を利用できないか。グラウンドも開放すれば、さらに駐車できる。 	
<p>航路の維持</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドでは、JRを利用した観光ツアーを実施している。三原駅から棧橋まで歩いて5分で、アクセスがスムーズなため、ツアーなどでは集合しやすい。 ・三原港は三原駅に近く、便利なところにあることを宣伝してきた。買い物や病院にも行きやすい。 ・航路再編計画で、フェリーが須波港発着になると不便になる。今後、島への観光客にアクセスをどのように伝えていくかが不安。 ・島の良さを伝える努力を行ってきたが、今後も伝えていきたいという思いがあり、大人数の来訪面からフェリーの発着は欠かせない。フェリーの発着が三原港になることがガイドの願い。 ・三原港に、引き続き高速船が到着するといっても、大人数には対応できない。 ・海浜セラピーは、海に到着してからだけでなく、景色を眺めながら、ゆったりできるフェリーに乗るところから始まっている。高速船では体感できない時間である。 ・自転車は高速船に2～3台くらいしか乗船できない。須波港まで行くのも大変で、交通面でも危険。サイクリストに三原港から須波港まで回ってくださいますと伝えづらい。 ・まだ決定していないというのが私たちの気持ちであ 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェリーの再編計画で利便性は明確に下がる。申し訳ない気持ちがある。 ・一緒に佐木島を盛り上げることに力を合わせていきたいと強く思っている。 ・島の人が何を大事にし、何を発展させたいかを十分に知り、市としてもとことん対応したいという思いがある。 ・「新幹線の駅から一番近い島」というキャッチフレーズのニュアンスが変わってしまうことになる。これから島の観光をどのように売り出していくかについての知恵を絞り、一緒に考えていきたい。 ・三原港、向田港、沢港とする提案は、土生商船も検討していると思う。市からも伝えたい。

	<p>る。決定していないのであれば、検討していくことはできないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活している人の気持ちと島の発展を考えるならば、安易に決めてほしくない。 航路再編の説明会で、三原港，向田港，沢港の航路を提案した。三原港発着とすれば，キオラスクエアや駅前での発展，港の盛り上がりにもつながる。三原港にフェリーが必要。 市街地から須波港まで行くのには時間がかかり，港に早く行かないとフェリーへの積み残しとなる可能性もある。 現状，須波港～沢港のフェリーは朝晩の通勤者が多く，日中は車の乗船がない便もあると聞く。 鷺港からのフェリーは業者や市の工事関係者など利用も多く，いろいろな人が困ると言っている。 島民のアクセスの悪さよりも，統合することでフェリーの乗船客を増やそうという考えであるが，須波に着くことは理解できない。 	
<p>佐木島循環バス（島バス）の運行</p>	<ul style="list-style-type: none"> 佐木島循環バス（島バス）は9人乗りで，月～金曜日までの1日5便運行し，島を1週している。 利用は1日約5人で，市内への通院・買い物などに利用されているが，土・日曜日，祝日は運休であり，観光客に対応できていない状況。 島バスは福祉用で，時刻体系も観光客用になっていない。 島の高齢化率は約70%で，車の運転をやめる人も出 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見として承り，今後の施策検討の参考にする。

	<p>てくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島バスを土・日曜日にも運行してほしい。 ・無人自動運転バスを試験的に導入してはどうか。 	
<p>人材の育成・確保について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間活動を続けてきたが、若い会員もおらず、イベント時の設営も厳しい状況。 ・これからも活動を続けていくためにも、三原観光協会や市と連携したい。 ・JRのツアーもなくなり、観光客を呼びにくい状況。事業の企画、PR、窓口などは、職員が常駐している三原観光協会に担ってもらいたいと思っている。 ・ガイドは、案内することに注力できれば、もっと後継者も増えるかもしれない。 ・島への交流人口や関係人口を増やすことで定住につなげたい。 ・島内に小学校を残したい。若い人が来て、住んで、子どもが生まれる佐木島にしたいということが大きな願い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係人口や交流人口の創出は、来年度に力を入れる政策として、進めていきたい。 ・島の皆さんにも協力をお願いしたい。 ・ご意見として承り、今後の施策検討の参考にする。